

# 第 7 回農業振興対策特別委員会

日時：平成 30 年 1 月 30 日（火）午後 1 時 30 分～

場所：市議会委員会室

1) これまで委員会での議論、視察研修を踏まえ振興対策について具体的な意見交換を行った。

◎主な意見等は次のとおり

## ① 担い手の確保

- ・ 農業の魅力の発信
- ・ これまでは後継者がやってきた傾向があるが、他産業あるいは都市から移住して農業をすすめる人も出てきている。当市でも宣伝、体制をつくるべきと考える。
- ・ 後継者と担い手は、もともとは定義が異なり、後継者はその農家の問題として取り上げられていたが、地域全体の問題として取り上げて行くべきではないか。
- ・ 労働力不足を補う人材バンクの設置及びその窓口をどこにすべきか（市主体化か農協か）を決めて、その後の展開を検討する。また、担い手不足を補うためにも、機械の導入、補助事業、リース事業も導入、PR すべきではないか。
- ・ 労働力不足が深刻化しているが、弘前で例があり、特に秋のリンゴの繁忙期に人出が不足していたが、来ていただく方に合わせた勤務時間の設定、スーパーなどにチラシなどでの周知により効果あり。（高校生、大学生、主婦のアルバイト）（窓口、農協や個人もあり）
- ・ 後継者だけが担い手ではない。鯉ヶ沢の方で、大学にターゲットを絞っての求人、アルバイト等。

## ② 農地の集積・集約

- ・ 市が主導（責任をもって）して、集団化していただきたい。
- ・ 中間管理機構は誰と貸借になるかわからず、借り手が作りやすい貸借にしていかなければ。効率のいい、集積、集約でなければ、複合経営しながらの 15 町歩は耕作しきれない。逆に効率のいい集積等は耕作面積を拡大できる。

## ③ 複合化、施設園芸の推奨

- ・ 先進地では、転作による収益増となっていた。本市が米だけでいけるのか、転作から収益を上げる対策（水はけ）を考えるべき
- ・ 水田の転作（大規模）と小規模でハウス、野菜等を作付けする二つのパターンを考えるべき。
- ・ 大規模で複合を図る場合、農協が中心となって、例えば業務用で進めるとか。そのためには植え付けとか収穫の機械化が必要と考える。
- ・ 簡単に考えている方もいるが、施設園芸は体力（若さ）と技術が必要な分野です。（JA）指導員が少ないこともあり、なかなか難しいのではないかと。メロン農家も減少してきている。メロンは機械化できない。

- ・ 土地改良区による、暗渠工事の負担の在り方や今後の見通しはどうか。水田を活用した転作を取り組んでいくためには必要ではある。話し合いをもってはどうか。

#### ④ 6次産業化

- ・ 米粉を製造する加工場の整備、米粉を使った給食等はどうなったのか。また、コーディネーターの配置は。ニッポン全国鍋グランプリで入賞した塩こうじ鍋、三宅裕司のふるさと探訪で紹介された「すしこ」といった、市民が気づかないつがる市の良さを発見・掘り起こしするためのコーディネーターを活用してはどうか。
- ・ 野菜の加工により、給食への供給、販売、地産地消を進めるべきではないか。
- ・ 市内の6次化で開発したもののPRが足りないのではないか。
- ・ 加工センターの活用が予約でいっぱい（家庭用）だ。笹もちは年中作って売っている。もっと支援すればもっと売れるのではないか。
- ・ 市内直売所等につがる市の特産品（6次化で開発した）ものが少ない。個人の物が多い。加工場を整備するなど支援することで、もっと売れるのではないか。
- ・ 原材料の契約に持っていくための業務用の加工場がない。
- ・ PR、売り込みが足りない。アップルパイは売れている。漬物文化に力を入れては。（材料は豊富にある）
- ・ 県民局（農業普及所）の話も聞いて見てはどうか。

#### ⑤ ブランド関連

- ・ 柏産直、森田道の駅でも店頭で、お客様に試食させるべきでないかと考える。いいものを試食させないと効果がないと思うが、フィスティブアル終了後の期間だけでも。但し農家に無償提供は農家の収入にも影響することから、試食分の買い取り又は助成できないか。（フェスティバル、トップセールスでは助成している。）リンゴの時期はいろんな品種があり、メロンは1個あたりの値段が高い。
- ・ メロンサミットでも好評であったプレミアムメロンを、ブランド化に向けてこの機会を流さない取り組み。
- ・ 青天の霹靂を精米方法等工夫したブランド米を出荷してはどうか。
- ・ 市内産直（事業者）の担当者に、先進的な道の駅・直売所の視察をさせてはどうか。

#### ⑥ 農業生産指導体制の強化 ⑦ 行政及び議会の役割

- ・ 市が実施した営農指導員を募集したが応募がなかったようだが、その分の予算を農協に補助して、農協が営農指導員を確保できるよう支援してはどうか。
- ・ 2農協の合併を望む声もあるが、現状は難しいのではないかと意見もある。両農協による「つがるメロン協議会」が設立され、昨年対比で109%のケースとなった。このように合併は難しいのであれば、必要に応じた体制をつくることは可能かどうか。

※ 上記のとおり意見が出されたが、次回3月上旬に委員会を開催し、現在、弘前大学農学生命科学部が調査中である（稲作） 農家意向調査の1回目の報告が予定されており、それを受け再度、振興対策について議論することとした。